

## 「防災」が変わる。「防災」を変える!

全国的に豪雨による災害が多発しています。行政やメディアも「避難」の呼びかけを、工夫されて伝えていきます。でも「避難しない人が大半」だという事実。何故、避難しないのでしょうか?それとも「**避難と同等の行動はできている**」ということなのでしょう。色々な憶測が飛び交っているようです。そもそも市内全域に避難勧告・避難指示が出たとしましょう。全員が避難した場合、受け入れられるだけのスペースはありません。にもかかわらず「100万人という単位」に避難勧告・避難指示が発令される。どうも様々な矛盾を感じてしまいます。



さて、今回も東京大学大学院情報学環教授・片田敏孝先生のお話を通して、先程の矛盾を検証してみましょう。片田先生はラジオ番組で、次のようなお話をされています。ご紹介します。

**「オオカミ少年」になるかどうかはあなたの災害に対する姿勢そのものだ。**

津波の予報区間はおおむね各県1つくらい。岩手県なら岩手県沿岸に、宮城県であれば宮城県沿岸に、というふうになる。どのようにこの警報を出すかという、例えば岩手県であれば、いろんな点で予測をして、その中の最大値をとって「津波警報」や「津波注意報」を出す。言ってみれば、最大値にあたる地域以外の他の地域はその予測値以下になる。そうすると、皆さんもおそらく津波注意報、津波警報の数字はおおむね大きく出がちだと思われると思いますが、それはその通りなんです。その区間の中の**一番大きい数字**をもってして出すわけだし、平均値をとってもしょうがない。そうすると情報の性格として、皆さんにとって「**大げさに出がちなもの**」という一面がある。でもその可能性があるから出ている。大きい予測値が該当するのはあなたのお住まいの地域かもしれない。でもそれがこなかったら「**よかった!**」と思ってもらえないと、津波警報は出せないんです。

また、この警報・注意報が「**オオカミ少年になる**」というのは非常に怖いこと。それも含めて自らを律していただきたい。今回も逃げたが津波はそんなに大きくなかった。そこで「**なんだよ、逃げて損したよ、気象庁また大げさだよ!**」と言ったら、次の津波のときに逃げるでしょうか?逃げなくなりますよね。仮に逃げたとしても、また外れる。「**損した!**」と。そこで

「**損した!**」と思ったらおしまい。「**こなくてよかった、得した!**」と思えるあなたでなければいけない。「**なんだこんちくしょう、はずれた!**」と思ったらとすると、「**またはずれた!**」「**またはずれた!**」となって、そのうち逃げなくなる。逃げなくなっても、まだ多くの場合は大丈夫だと思う。そうすると「**ほら、逃げなくてよかったです**」になる。こうなるともう逃げない。そして何度も何度も繰り返すうち、概ねずっと大丈夫、でも最後の一回を迎えたときに「**しまった、逃げとけばよかった!**」となる。そこで津波の出され方の性格をきちんと理解して「**可能性があるから逃げたんだ、でもこなかった、よかった**」「**また逃げた、今回も来なくてよかった**」そうやって逃げ続けて、最後の一回を勝ち取れるのが、「**やっぱり逃げてよかった**」ということになる。

こういう情報をわたしたちはどう利用するのか。それを活かせる自分であること。「**オオカミ少年**」になるかどうかはあなた自身の問題であり、**あなた自身の責任**であり、その姿が子どもたちや孫たちにも伝わっていく大きな大きな分かれ目だと思う。

津波警報を適切に使えるか、理解できるか、行動に結びつけられるのか。それはあなたの災害に対する姿勢そのものだと思う。相変わらず逃げなきゃいけないときにはお役所に教えてもらえる、その情報は必ず正確じゃなきゃいけない、というような、情報やお役所に対する「**依存度**」が高くて、すなわち**自分の命を守ることに對して主体性がない**。これが最も危ない状態。それを理解してほしい。そうでなくなるよう**あなた自身に変わってもらいたい**し、それが次の津波に対して教訓を生かすことだと理解してほしい。(片田敏孝先生談)



片田先生の話と豪雨災害で避難する人が少ないという話は「**水**」「**災害**」「**避難**」と共通のキーワードが存在する。しかし、これらは全くの別物として考える必要があると思います。そこには『**猶予**』が存在するかどうか。天気予報で数日前から豪雨予報、更には前もって気象庁からの緊急情報も出ます。ここで備えの種類の備える方法に入るタイミングの両方が存在します。しかし、片田先生が語る「**避難**」は巨大地震が突然発生し「**津波の予見が短時間**」しかなく、時間の猶予が無い。共通のキーワードが存在しても、全く違う「**備えの手法**」を取得しておく必要があるということです。皆さんも自分にしか判らない「**災害への備え**」**自分自身で主体的に確認してみましょう!**